

防災ボランティア活動を受け入れる知恵

— 「受援力」 その2 —

ボランティア活動の基本

- ボランティアは日中に活動をしますが、天候が悪いときなどは行わないことがあります。また、平日よりも土日にも人数が集まりやすくなっています。
- ボランティアは自発的な活動ですので、ボランティアの人数が少ない場合などはすぐに対応してもらえないこともあります。
- ボランティアは原則として、「ボランティア保険」に加入していますが、危険なところでの活動はさせないなど地域としても留意する必要があります。

家屋では

- 家の中の散在した家財や浸水した家財の片付けを家族や近隣だけにするのはとても大変ですから、ボランティアにお手伝いをしてもらえます。
- ボランティアに頑張ってもらっているからといって依頼した人たちも一緒に無理して作業を続ける必要はありません。
- 一緒に作業する際には、休憩中に災害のときの様子や地域の風習などを話したり、なぜ活動に参加したのか、どこから来たのか聞くなど話をしてみてください。
- 災害により家が傾いていたり、余震や天候不良により二次災害の危険がある場合は、ボランティアに家の中の物を取ってきてもらうのは控えてください。ある程度、落ち着くまでは我慢も必要です。
- なかなか家の中に知らない人たちを入れるのは抵抗感があるかもしれませんが、一度お手伝いをしてもらうと、抵抗感はなくなっていきます。
- 今の段階では必要ないけれど、後で頼む可能性がある場合は、そのことを災害ボランティアセンターに伝えておければ、対応がスムーズになります。



避難所では

- 避難所は、避難した人たちが食事や睡眠などの生活をする場所であり、生活再建の中心となる場所です。
- 日頃から、避難所の場所や備蓄の内容、運営の担い手・運営方法など知っておく必要があります。
- 自分でできることは自分で行いますが、自分だけでできないことはボランティアにお手伝いを求めることもできます。

「ボランティア保険」とは

ボランティア活動中におこる様々な事故からボランティアの方々を補償する保険です。活動中のけが、事故、または第三者への損害や物損の賠償責任も補償されます。保険料は 300 円～1,000 円程度です。被災された人たちが負担する必要はありません。